

謹賀新年



えぽっく

第2巻1号通刊10号
2001年1月1日発行
中央区八重洲2-1
八重洲地下街
TEL033272-2888

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE

21世紀の夢

明けましておめでとうございます。皆様のご健康とご繁栄を心から祈念申し上げます。

アッ！本日から21世紀なのです。1900年代から2000年へ、そして、20世紀から21世紀へ。ザラ紙の本に描かれていた未来図が現実のものとなり、益々速いスピードで技術進歩が見られ、本当に便利な日常になりました。海外旅行も手軽になり、地球が小さくなった感じがします。宇宙旅行が景品になる時代ですから、今世紀中には宇宙旅行が流行ることでしょう。

IT化が進み、デジタルの世界で仕事し、遊ぶことになるのですが、熱い太陽の陽を浴びて、美味しい空気を吸って、美味しい水が飲める自然が遠ざからないことを願っています。小さい頃、満天の星空を見たことがあります。あの美しさは何時までも忘れられません。技術の進歩が、以前の大自然を身近なところまで引き戻してくれることを願います。

私たちの店も、新たなコンセプトの基に再出発することにしました。八重洲古書館マニア向けの店舗画です。金井書店で閉店し、古書の魅力をお伝えできる新す。バリアフリーを
古日本屋の
は古書が沢山ある、として充実させる計八重洲店は今月末力をひとりでも多くのしい店舗を計画中で念頭に、あらゆる方にご利用いただける店舗設計を行っております。2月3日のオープンをご期待ください。

私たちがセレクトした書物たちが、皆さまのハートを熱くしたり、癒すことができたら、すご〜く幸せです。皆さまにお喜びいただけることを夢見て楽しく仕事していきたいと思ひます。

八重洲地下街が『文化の香漂う街』『文化の発信地』となりますように、私たちがお役に立てるよう勉強してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

皆さまのご来店をスタッフ一同お待ちしております。本年も相変わりがせずお引き立て賜りたくお願い申し上げます。

八重洲古書館店長 渡辺明子
金井書店八重洲店店長 川上亜衣子
スタッフ一同

スタッフのメッセージ

明けましておめでとうございます。

あっという間に、1年が過ぎ、気が付けば、もう20世紀も終わってしまいました。

毎年、元旦には、その年の目標を立てるのですが、今までにそれが満身に達成出来た試しがありません。今年は、どうして毎年目標達成できないのか、考えてみたのですが、なんのことはない、総べて私自信の性格に原因があるのではないかと、思い倒りました。

努力や根性といった熱血が、基本的に性に合わないせい、それとも単に怠け者なのか、私のモットーは、『明日できることは 今日しない』というものです。しかも、人生哲学は『明日は明日の風が吹く』とては、目標達成なんて、夢のまた夢というものでしょう。しかも、昔から、『予定を立てるのは、現実がどれくらい予定からずれているかを知る為』という、かなり困った人だったことも思い出し、反省することしきりです。

今年は、新世紀も迎えたことすし、もう少〜しだけ、自分自信に対して、努力をしてみるのも、良いかなあ、と思ひました。

1月には、皆様に長年ご愛顧を頂いた金井書店八重洲店も閉店を迎え、2月には、新しい店舗がオープンします。昨年に引き続き、今年も、変化に富んだ、様々なことがある1年になると思ひます。まだまだ、若輩の身なので、行き届かない処も、多々あることと思ひますが、精一杯頑張っで行きたいと、新たなる気持ちで考えています。

昨年に引き続き、本年もどうぞ、よろしくお願ひ致します。

金井書店八重洲店店長 川上亜衣子

最新情報はインターネットホームページをご覧ください。
<http://www.kosho.co.jp/>

RETRO = 懐古趣味
REVALUE = 再評価する
RECYCLE = 再利用、環流する

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE





近代日本画の世界

激動の20世紀も幕を閉じいよいよ新世紀の幕開けとなりました。もっとも、だからといって特別何が変わるとい訳ではありませんが、それでも“新”という言葉には、希望や明るさがあるように思えますし、気分だけでも、何となく特別な気がします。だからこそ、お正月を殊更に祝い、寿くのではないのでしょうか。

そのお正月では、日本古来の風習が未だに色濃に残っている行事のうち、最たるものです。門松、注連飾りおせち料理、どれをとっても、日本的です。また、初夢の筆頭にあげられるのが“富士山”というもの、いかにもとら感じがして、面白い気がします。初夢といえば「1富士、2鷹、3茄子」ですが、富士や鷹は、数百年の昔から絵画にもよくよく主題として取り上げられてきました。それだけ、日本人には身近であり、また、深を感じる何かがあったとらことなのでしょう。この日本に昔からある絵画の流れを及ぶ日本画、その中でも特に近代の日本画を中心に、紹介してきたいと思います。

日本における絵画の流れが大きく変わったのは、文明開化に伴う洋画の作品や技法の流入でした。こうした近代絵画については、以前『画家の筆跡』を取り上げた時に、ご紹介していますので、多少内容に重複が出てしまうところも含め、改めてみてゆきたいと思います。

日本の近代美術生誕時の最も重要な人物といえ、フェノロサと岡倉天心です。もともと、洋画の技術を吸収・会得してゆくことで、発展を遂げてゆく近代美術界において、東洋や日本の伝統絵画を重んじた岡倉天心は、明治31(1898)年

に、『日本美術院』を創立します。創立時の主要メンバーは天心の最初期の弟子である「横山大観」・「下村観山」・「菱田春草」らです。彼等により、日本画の新しい創造が模索されて、





現在へと続いてゆきま
す。またこの『日本美
術院』の創立前後に
は、その他にも、数多く
の小さな団体が誕生
しています。『巽画
会』、安田靉彦らが
中心となった『紅児
会』、鍋木清方らによ



る『鳴合会』、平福百穂らによる『无声会』など、数え上げて
ゆくときがありません。これらの各団体は、もともとのグループに
対して、新派と呼ばれますが、どれも東京画壇の関係です。

一方、京都画壇にも竹内栖鳳・菊池芳文・山元春挙らが活躍します。こうした流れの中で、明治40(1907)年
に我が国初めての官展である文展が開設されることになりましたが、その主導権をめぐり、東京画壇の新旧両派が
対立します。旧派は、正派同志会を組織し、新派の諸団体は、『国画玉成会』を結成します。そこに、京都画壇
や東京画壇の中立派が絡み、日本美術界は渾沌としてしまします。第3回の文展からは、なんとか両派が揃いま
すが、この確執はその後も長続ます。第6回文展からは、両派の審査・展示を第一科(旧派)と第二科(新派・中
立派・京都派)に分けることとなりますが、結局、これも第8回には、旧制に戻るようになります。

大正時代に入ると、岡倉天心の逝去を機会に、『日本美術院』が横山大観や下村観山、『紫紅会』の安
田靉彦・今村紫紅らによって再興されます。彼らは、次第に文展から離れ、在野反文展の方向へと傾いてゆき
その芸術に対する真摯な姿勢は、新しい風をおこしました。この『再興日本美術院』には、その後も『紅児会』の
小林古径・前田青邨、『赤曜会』からは速水御舟などが参加しま



また小川芋銭・富田溪仙
・川端龍子なども名前を
列ねることとなります。また
面白いところでは、『新興
大和絵会』なる団体が結
成されますが、これは、日
本の伝統にも敬意を持ち
つつ、新しい時代の新た
なる大和絵を興そうとい
うもので、狩野光雅や山口
蓬春らがいます。

一方、京都画壇では
村上華岳・土田麦遷・小野竹喬ら新しい若手作家たちが現れ、顧
問に竹内栖鳳を迎えて『国画創作協会』を結成します。彼らは、伝
統ある京都画壇に、大きな影響をおたえました。

こうした新しい波が興ると、文展への批判も高まり、ついに帝国美



術院規定が公布されます。これにより、官展は文展から帝展へと変わりますが、在野に下っていた画家の多くが、この『帝国美術院』への参加を固辞したため、結局は全体的に不徹底なままとなり、精彩を欠いています。その後、昭和に入ると、帝展は度重なる改組で揺れ動き、最終的には再び文部省の主催する文展が開催されることとなります。

その後、現在日本絵画においても、先に挙げた作家たちに師事した新しい画家が多登場します。古径に師事した奥村土牛、山本丘人に師事した加山又造らを始め、上村松篁・小倉遊亀なども、昭和に入って活躍した作家です。現在、若い女性達にも人気のある東山魁夷や平山郁夫なども、こうした流れを及んでいる日本画家です。

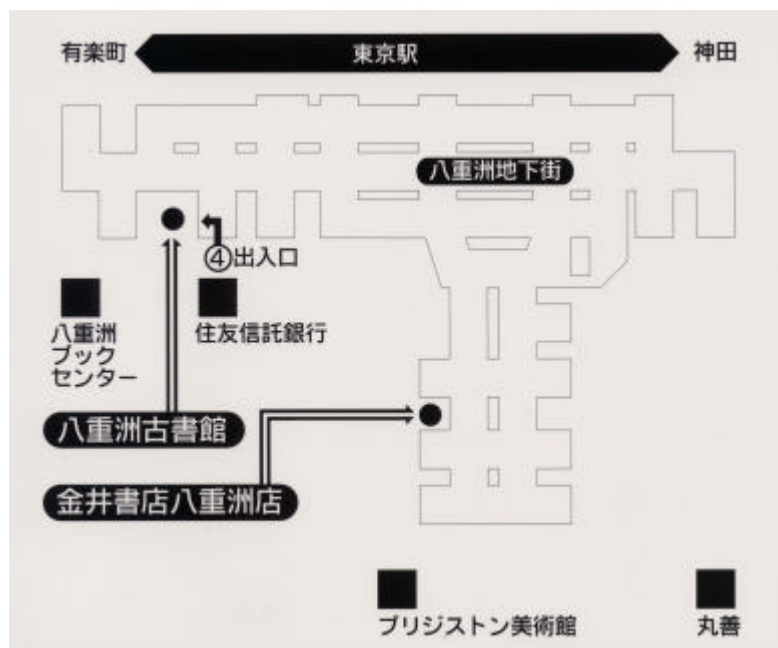
日本画は、油彩を中心とし、鮮やかな色彩を多用した洋画の世界に比べ、全体的に淡く地味な印象があります。しかし、そこには日本人が古来より馴染み親しんできた、わびやさび、あわれといった情緒の豊かさがあり、幽玄の美があります。それは、花や月を愛で、茶の湯や香道・華道を愛好する心に通じるものです。カラフルで、華やかで、現代的な洋画も、もちろん素晴らしいものですが、偉大な絵画芸術です。同じように、日本画も、ただ地味で古めかしいものではなく、絵画芸術のもう一つの側面であることを、この展示より見つけ、感じ、少しでも好きになって頂けるとしたら、これに優る喜びはありません。

(文責：川上亜衣子)



展示場所：金井書店八重洲店 & 八重洲古書館
開催期間：2001年1月2日(火)～1月30日(火)

読み終えた本、昔の本をお売り下さい



TEL & FAX 03-3275-2691
営業時間 平日 10:00～20:00
土日祝 11:00～19:00



TEL & FAX 03-3272-2888
営業時間 10:00～20:00

〒1040028 東京都中央区八重洲2-1 八重洲地下街
年中無休(元旦のみお休みさせていただきます)

ご意見ご感想ご提案をお待ち申し上げます。
下記宛にお寄せ下さい。

金井書店営業本部

〒161-0032 東京都新宿区中落合421-16

FAX 03-3953-7851

E-mail: office@kosho.co.jp